

令和2年度第3回 中央国有林材供給調整検討委員会 議事次第

令和3年3月2日 13:15~16:15

林野庁 AB 会議室

1 開会

2 国有林野部長挨拶

3 出席者紹介

4 議事

①-1 各森林管理局の供給調整状況について・・・資料1

①-2 委員からの意見

②-1 木材需給動向・・・資料2

②-2 意見交換

③ 国有林材供給調整の対応について

5 閉会

○配布資料

- (1) 出席者名簿・・・1P
- (2) 資料1 各局供給調整検討委員会の結果・・・2~10P
- (3) 資料2 木材の需要動向・・・11~21P

## 令和2年度第3回 中央国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

### ○委員(代理人)

分野	所属・役職名	氏名	参加方法
原木流通(北海道)	物林 株式会社 営業本部 北海道グループ長	なかね もとなり 中根 幹成	WEB
原木流通(東北)	ノースジャパン素材流通協同組合 常務理事	たかはし さゆみ 高橋 早弓	WEB
製材(関東)	協和木材 株式会社 代表取締役	さがわ ひろおき 佐川 広興	WEB
市場(中部)	株式会社 東海木材相互市場 代表取締役社長	すずき かずお 鈴木 和雄	WEB
合板(近畿中国)	林ベニヤ産業 株式会社 代表取締役社長	ないとう かずゆき 内藤 和行	WEB
製材(四国)	八幡浜官材協同組合 代表理事	きくち しげと 菊池 繁人	WEB
素材生産(九州)	日高勝三郎商店 代表	ひだか かつさぶろう 日高 勝三郎	WEB
学識経験者	NPO法人活木活木(いきいき)森ネットワーク 理事長	えんどう くさお 遠藤 日雄	WEB
所有者	全国森林組合連合会 系統事業部長 兼 購買課長	きくち ひであき 菊地 英晃	会議室
所有者 (住宅・バイオマス)	住友林業 株式会社 資源環境事業本部 山林部長	てらさわ けんじ 寺澤 健治	会議室
市場・製品販売	東京中央木材市場株式会社 代表取締役社長	いいじま よしお 飯島 義雄	会議室

### ○ 林野庁

所属・役職名	氏名
国有林野部長	織田 央
国有林野部 業務課 課長	宇野 聡夫
“ 企画官(国有林材安定供給担当)	田口 護
“ 企画官(水源地域整備担当)	宇山 雄一
“ 課長補佐(供給企画班)	川原 聡
国有林野部 経営企画課 技術開発調査官	石田 良行

### ○ 森林管理局

所属・役職名	参加方法
北海道森林管理局 資源活用第一課	WEB
東北森林管理局 資源活用課	WEB
関東森林管理局 資源活用課	WEB
中部森林管理局 資源活用課	WEB
近畿中国森林管理局 資源活用課	WEB
四国森林管理局 資源活用課	WEB
九州森林管理局 資源活用課	WEB

各局の供給調整検討委員会の検討結果

# 国有林の供給調整の手法と各局の対応状況

## ○各局の対応状況

令和3年2月17日現在

### ○供給調整の手法

- ・立木販売の搬出期間の延長
- ・立木販売の公告延期
- ・請負事業発注の調整
- ・丸太販売の先送り

### ○対応方向

#### 【中央供給調整検討委員会報告】 (第2回 10月開催)

- ・木材需要は先行き不透明であり、地域や業種ごと、業種内でも繁閑差がみられる。
- ・木材は国際商品であり、国産材製品の需要は海外の状況を受けることから状況を注視する必要がある。

各地の木材需給の状況の把握に努めつつ、民有林を補完する観点から、国有林材の供給を慎重に調整する。

森林管理局	供給調整検討委員会 開催状況		対応状況
北海道	第1回	5月	立木販売搬出期間の延長、立木販売の公告延期
	第2回	9月	丸太販売の先送り
	第3回	12月	対策を継続
東北	臨時	4月	立木販売搬出期間の延長
	第1回	6月	立木販売の公告延期、丸太販売の先送り
	第2回	9月	原木生産を伴わない森林整備に振替
	第3回	12月	一部丸太販売の緩和
	第4回	2月	原木の供給と調整を機動的に発揮できる体制を継続
関東	臨時	4月	立木販売搬出期間の延長
	第1回	6月	立木販売の公告延期
	臨時	8月	原木生産を伴わない森林整備に振替
	第2回	9月	丸太販売の先送り
	第3回	12月	一部立木販売の公売延期の措置を緩和
中部	第1回	4月	立木販売搬出期間の延長
	第2回	7月	立木販売搬出期間の延長の対象物件の拡大
	第3回	10月	対策を継続
	第4回	2月	事業の早期発注等により柔軟に国有林材を供給
近畿中国	第1回	5月	立木販売搬出期間の延長
	第2回	8月	立木販売の公告延期、丸太販売の先送り
	第3回	10月	対策を継続
四国	第1回	4月	立木販売搬出期間の延長
	第2回	7月	対策を継続
	第3回	11月	対策を継続
九州	(第4回)	3月	立木販売搬出期間の延長
	臨時	5月	立木販売の公告延期
	第1回	6月	丸太販売の先送り
	第2回	9月	対策を継続
	第3回	12月	一部立木販売の公売延期の措置を緩和

# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

北海道森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第3回国有林材供給調整検討委員会: 令和2年12月17日): 検討結果「**供給調整の継続が必要**」

- ・民有林の伐採は、これから最盛期を迎えることや木材需要が全体的に回復していないことを考えると、国有林材の供給調整の抑制量を急激に緩めるべきではない。
- ・ホワイトウッド等の輸入材は、入荷が厳しくなっている。製材工場は生産調整で素材の在庫が減少しており、特にトドマツ小径木が不足してきている。
- ・移出の実績は、カラマツが昨年度比117% で好調な一方、トドマツは25%と大幅に減少。
- ・製紙需要は、一時的に回復したものの減少しており、それに伴い減産している。来年度については、不透明である。一度に大量の輸送のオーダーが入っても、トラック運材のキャパには限りがあるので対応できない。
- ・バイオマスは、新型コロナの影響を最も受けない分野であるが、原料の集荷に苦慮している。
- ・建築関連の製材や合板の動きは回復してきたが、梱包材がなかなか回復してこない。国有林材の供給調整は、素材価格が暴落していないことを考えるとうまく機能したと考えている。
- ・製材工場は冬期に伐採した材の購入に動くことが想定され、運材できるうちに販売するべきであり、国有林材の委託販売量の一部見合わせは見直してほしい。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和2年3月12日	必要なし	
令和2年5月29日	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長及び立木販売の公売の一時延期(実施日:6月9日付け)
令和2年9月29日	必要あり	・分収林等を除く立木販売の公売量を年間予定量の5割程度に抑え、素材の委託販売の一部を見合わせる(実施日:10月19日付け)
令和2年12月21日	継続が必要	・素材の委託販売の一部見合わせを継続
令和3年3月10日		

## 3. 地域における最近の動向

- ・一部工場では小径木を中心に原木不足との声も。合板用原木等の移出は回復しており、特にカラマツは不足感。
- ・民有林の伐採が本格化しつつあるが、森林組合の製材工場は原木在庫を極力減少させてきたことや、合板用原木等の移出の回復で必要量に供給が追いついていない。

# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

東北森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第4回国有林材供給調整検討委員会:令和3年2月4日): 検討結果「供給調整の継続が必要」

- ・生産事業者が民有林での素材生産作業に入っているものの、保育作業からの移行の遅れや天候の影響により、出材の増加が例年よりも遅れているが、生産量は徐々に増加する見込みである。
- ・カラマツやマツ類は米材等の高騰を受けて引き合いが強く、価格も強含んでおり、この傾向は今後も続く見通しである。
- ・製材工場や一部の合板工場等では材が不足気味であり、11月以降原木の引き合いは強い。一方で製品の引き合いは回復傾向にあるものの、緊急事態宣言もあり、先行きが不透明な中で、価格も弱含んだまま保合傾向となっている。
- ・低質材については、バイオマス用は荷動き、価格とも安定している。一方で製紙用は一部では入荷量の回復が見られるものの、全体には低調で推移している。
- ・輸出に関しては米国向けのフェンス材等及び中国向けの原木の輸出が順調に推移しており、特に中国向け原木価格は強含み傾向にあり、輸出に向けた動きが活発化している。
- ・立木販売の搬出期限の延長、システム販売の納期繰り延べ、森林整備事業の代替発注等の今年度実行された供給調整対策には生産側、流通側とも効果を感じており、感謝している。原木不足に対しても、国有林材販売のための除雪を一部で行っていただいているが、引き続き柔軟に対応していただきたい。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和2年2月20日	必要なし	
令和2年4月22日	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長(実施日:4月27日付け)
令和2年6月11日	必要あり	・立木販売の公告一時延期(実施日:6月25日付け)、搬出を伴わない森林整備事業の代替発注を10月12日の週から順次入札開始
令和2年9月17日	継続が必要	
令和2年12月10日	継続が必要	
令和3年2月4日	継続が必要	・原木の供給と調整を機動的に発揮できる体制を継続

## 3. 地域における最近の動向

- ・管内の合板工場等は概ね平常稼働に戻り、受け入れ制限も徐々に緩和。
- ・民有林の出材状況については、コロナ禍による生産班の伐採作業開始の遅れ及び大雪の影響により例年より出材量が減少傾向。

# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

関東森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第3回国有林材供給調整検討委員会:令和2年12月17日):検討結果「供給調整の継続が必要(一部緩和)」

- ・スギ柱材用原木は市の開催の度に価格が上昇し、一時は1万4～5千円まで上昇したが、11月後半には一服感がみられる。
- ・栃木県森連の共販所が10月に開催した秋の優良木材展示会は昨年並みの出材量となったが、民有林の一部地域では出材量が少ない状況が続いている。製品価格は例年と比較すると、全体的に1割程度低い水準となっている。
- ・製品の荷動きは戻りつつあり在庫も減少しているが、価格については従前に比べ低水準で推移。一方、原木生産が遅れているため、一部では丸太の取り合いの様相が強まっており、「原木高、製品安」の苦しい状況が当面、続くものと思われる。
- ・当森林組合連合会が運営する木材流通センターでの原木取扱量は、ほぼ令和元年度並み。
- ・製材などの製品需要が落ちる中、原木が大きく値を下げなかった事は、関係者が適切な判断を行ったことや各種施策が効果的に働いた結果と考える。
- ・「立木販売の公売延期」については原木の需給が逼迫した地域もみられることから、地域によっては緩和してもよいと考える。
- ・素材生産業者が素材価格の高いうちに出材をしようと急ぐ動きもあり、春先に出材過剰から原木在庫が増えすぎることの懸念もある。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和2年3月11日	必要なし	
令和2年4月23日	必要あり	・立木販売の搬出期限が今年度末までの物件について1年間の無償延長(実施日:4月30日付け)
令和2年6月23日	必要あり	・分収林等を除く立木販売の公告一時延期(実施日:6月30日付け)
令和2年8月18日	必要あり	・搬出を伴わない森林整備事業への振り替え及び、一部県森連への委託販売の一時見合せを実施(実施日:8月31日付け)
令和2年9月30日	継続が必要	・現在取り組んでいる国有林材の供給調整を継続して実施(公表日:10月14日)
令和2年12月17日	継続が必要	・現在取り組んでいる国有林材の供給調整を継続して実施しつつも、栃木、静岡で延期措置の一部を緩和(公表日:1月27日)
令和3年3月15日		

## 3. 地域における最近の動向

- ・全般的に原木不足で原木価格の上昇が続くも、製品価格の上昇は追いつかず製材業者は苦しい状況との声。
- ・民有林からの出材量は秋口から年度末にかけて増加傾向にあるが、全体としては各県ともに例年より若干少なくなる見通し。

# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

中部森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第4回国有林材供給調整検討委員会:令和3年2月3日):検討結果「**国有林材の供給調整措置を追加する必要はない**」

- ・令和2年度豪雨や、これまでの価格下落及び令和2年12月の豪雪により出材量が減少した結果、総じて原木の不足感が強まっており、木材製品も含めて価格は回復傾向にある。このため、国有林材の供給調整措置を追加する必要はない。  
なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、木材需要の先行きは依然として不透明であるため、公共事業における木材需要の拡大や民有林と国有林の連携した新たな木材需要の確保に向けて取り組むとともに、民有林からの出材回復に向けた情報を発信しつつ、外材の輸入動向や地域の需要動向を踏まえ、事業の早期発注などにより柔軟に国有林材を供給することが望まれる。
- ・雪の影響もあり原木出材量が少ないため注文はあるのに製品が作れない。国有林材を増産して欲しい。川下は責任を持って受け入れる。
- ・森林組合系統は、素材生産の再開も早いですが、価格下落で民間事業者は仕事がなくなっていたことから、すぐに再開するのは難しい状況。
- ・輸入材の供給難で垂木、枿材、間柱、梱包材などでも国産材製品への問合せがある。国産材へシフトできるチャンスであるが、原木不足で製品を供給できずに機会を損失している。原木価格もコロナ禍前に戻しているため原木供給を増やして欲しい。
- ・安定供給と安定需要が揃うことが大切、価格を決められない山側の力が弱すぎる。買い方も資材だという認識をし価格安定をしない限り安定供給は難しい。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和2年3月10日	必要なし	
令和2年4月22日	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長(実施日:4月27日付け)
令和2年7月17日	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長の対象を拡大(実施日:7月27日付け)
令和2年10月6日	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長の対象を拡大(実施日:10月20日付け)
令和3年2月3日	追加措置の必要はなし	・立木販売の搬出期限の無償延長を継続(実施日:10月20日付け)

## 3. 地域における最近の動向

- ・民有林からの供給体制の遅れ、12月豪雪の影響等により、原木増産を求める声大きい。一部の樹種は、価格も戻っている。  
バイオマス燃料の需要も非常に高く、パルプ材との競争が激しくなっている。



# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

近畿中国森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第3回国有林材供給調整検討委員会:令和2年10月21日):検討結果「供給調整が必要」

- ・製材については、大手では丸太不足と言われているが、地元の工務店は動きが回復し、製品の注文は順調と聞いている。しかしながら、製品市場での製品価格に回復基調が見えていない。
- ・合板は単価が戻っていない状況。合板用丸太の単価が戻ってこないバイオマス用材の方に供給されて価格が上がらない状況になることを危惧している。
- ・国有林材の供給調整の検討にあたっては、住宅着工戸数を重視するだけでなく、バイオマス燃料の需給動向を十分に加味すべき。
- ・近畿地方ではB材が明らかに不足している。全国一律の政策ではなく、地域の需給バランスを考えた政策が必要。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和2年3月13日	必要なし	
(令和2年6月9日)	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長(実施日:6月10日付け)
令和2年8月6日	必要あり	・分収林等を除く立木販売の公告一時延期(実施日:8月21日付け)、生産請負事業について、一部発注を見送り(実施日:9月8日付け)
令和2年10月21日	継続が必要	
令和3年3月9日		

※()は書面開催による意見取りまとめ日

## 3. 地域における最近の動向

- ・原木について、ヒノキは各地域とも横ばいで安定相場。
- ・スギについては、横ばいの地域がある一方で、兵庫:出材量の不安から全体的にこじかり高、岡山:スギの出材が減少しており、合板取りとチップ材が高騰、ただし、続かないとみている。

# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

四国森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第3回国有林材供給調整検討委員会: 令和2年11月6日): 検討結果「**供給調整の継続が必要**」

- ・素材生産業においては、長雨等による生産量の減少から前年同時期並みに戻りつつある事業者は増えているが、コロナ禍の影響で原木価格が例年より下がっているため、事業者にとっては厳しい状況が続く見込み。
- ・製材品の荷動きは夏場に比べれば少しずつ好転しており、原木の入荷が少ないものは品薄になるものも出始めている。一方、製材品価格は夏場に値下げして以降、横這いが続いており、製材品の値上げを打診しても反応が薄い。
- ・森林組合系統では、原木単価の安値から除伐や切り捨て間伐を行う事業者が出ているため、出荷量は少ない状況が続く見込み。
- ・原木市場等については、低位だった入荷量は増加傾向が見られる。原木の荷動き・価格動向については、一部地域では原木の種類によっては高値が付くなど買方の引き合いもよいが、製材品単価が上がっていない状況下で原木の大量入荷があると、再び原木価格が下落することを懸念する。
- ・製材工場については、稼働状況は9～10月頃から工場によっては平常稼働に戻しているが、原木の入荷が追いつかないなど、製材工場の動きに反して原木の品薄感が目立ち始めている。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和2年3月26日	必要なし	
令和2年4月27日	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長(実施日:5月21日付け)
令和2年7月9日	必要あり	
令和2年11月6日	継続が必要	
令和3年3月17日		

## 3. 地域における最近の動向

- ・製材工場等は9月頃から徐々に平常稼働へ。原木需要は高まるも原木生産が需要に追いつかず市場では原木に品薄感。
- ・民有林は出材増の動きもあるが、先行き不透明なため慎重に対応している状況。

# 各局の供給調整検討委員会結果と最近の動向

九州森林管理局

## 1. 直近の供給調整検討委員会における答申と主な意見

(令和2年度第3回国有林材供給調整検討委員会: 令和2年12月17日): 検討結果「供給調整の継続が必要(一部緩和)」

- ・当社の原料は外材を使わず国産材100%で生産を行っており、通常原材料は生産量の3ヶ月分を目安に持っていたが、現在1.5ヶ月分まで回復。しかしながら冬期に入り積雪による出材への影響など、何らかの原因で出材が止まる事などを考えるとまだまだ不安な数量ということで、もっと在庫を集める必要があると思っている。
- ・森林組合の入荷量は、若干増えつつあるが昨年同期と比べ3割減となっている。原木の入荷量が少ないため、中目材を中心に引き合いが多く大径材にも応札が多く売れ行きは良好。輸出業者は中国向けが順調で原木が足りない状況で上向き相場。
- ・製品の荷動きは秋以降、出荷の方も進んでおり単価に関してもかなり下げているが値戻しの方も徐々に出来てきている。しかしコロナ前の水準までは戻っておらず、荷動きがある分、売り上げは上がってきているが利益の方は伴っていないというのが現実。
- ・外材製品がタイトとなってきており製品の価格も戻りつつある。供給調整については必要なく出材を増やす必要がある。
- ・製紙関係について、新聞用紙の業界の伸び率は8ヶ月連続で2桁減、紙・板紙の国内の今年の1月から10月までの出荷量は15ヶ月連続で減少。
- ・秋以降は天候に恵まれているが、原木出荷の量がいまひとつ増えておらず、理由としては市況悪化により民有林が除間伐等へシフトした関係で搬出に戻そうとしてもレスポンスが悪くなっており時間がかかっている事が原因にあると思われる。
- ・コロナ禍の中、これまで宮崎県においては森林・林業・木材産業において大きな混乱が無かったのは国の政策のおかげ。輸出も好調で原木が足りず対応に苦慮しているところもあり原木の安定供給が重要である。

## 2. 局におけるこれまでの対応

委員会開催日	検討結果	対策
令和元年12月3日	必要なし	
(令和2年3月31日)	必要あり	・立木販売の搬出期限の無償延長(実施日:3月31日付け)
(令和2年5月30日)	必要あり	・立木販売の公告一時延期(実施日:5月28日付け)、立木販売の搬出期限の無償延長対象の拡大(実施日:6月1日付け)
令和2年6月22日	必要あり	・原木生産を伴う森林整備事業における未発注物件の一部見合わせ(実施日:7月30日付け)、分収造林等について、9月以降の一部販売を再開(実施日:8月7日付け)
令和2年9月24日	継続が必要	
令和2年12月17日	継続が必要	・原木不足の要請を受けて、立木の販売を一部再開。
令和3年3月11日		

## 3. 地域における最近の動向

- ・原木高値になっても先行き不透明感から民有林からの出材が鈍い状況が続いている模様。
- ・製品の動きはそれなりに動いている模様であるが原木価格の高騰が続いているので製造コスト面で厳しいとの声を聞いている。

## 木材需給動向

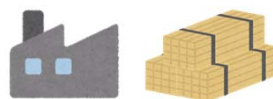
# 木材需給の動向（令和3年2月5日現在）

（影響は川下から川上へ）

## 【林業】 （川上）



## 【木材産業】 （川中）



## 【木造住宅の受注】 （川下）



- ・原木需要の減退に伴う原木価格の低下は一部地域を除き概ね回復。

（参考）1月第4週のスギ丸太価格

〔径級24cm程度、長さ4m程度の中丸太〕

秋田県	：14,520円/m <sup>3</sup> （+4%）
長野県	：10,000円/m <sup>3</sup> （▲17%）
岡山県	：12,000円/m <sup>3</sup> （+4%）
宮崎県	：13,300円/m <sup>3</sup> （+14%）

注：（ ）内は対前年同月比

- ・製材・合板工場の原木の入荷制限を受け、出荷できない原木が滞留していたが、現在は解消。

- ・降雪等の影響もあり原木供給は不足気味。

### 【北海道・中国地方】

- ・物流全般の荷動きの減少に伴い、梱包・パレット用原木の需要減少が継続。

### 【九州】

- ・中国向け輸出の再開を受けて、低質材・大径材の需要が回復しつつある。

- ・スギ柱材などの製材、合板の価格は強含みに転換。

（参考）スギ柱角・乾燥材（九州） 針葉樹構造用合板（首都圏）  
〔3.5寸角、3m、円/m<sup>3</sup>〕 〔12mm厚、円/枚〕

5月	50,000	1,030
6月	48,000	1,010
7月	48,000	980
8月	47,000	950
9月	46,000	950
10月	46,000	940
11月	48,000	940
12月	49,000	940
令和3年1月	51,000	950
	（▲6%）	（▲10%）

注：（ ）内は対前年同月比

- ・建築用木材の需要は少しずつ回復傾向。

（参考）プレカット工場稼働率調査（1月は受注、2月は見積）

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
89.0%	90.9%	91.6%	88.0%	93.5%	95.3%	97.5%	99.8%	87.6%	78.8%

資料：日刊木材新聞社調べ



- ・原木・製品共に工場内で増加していた在庫は減少。原木不足もあり製材・合板工場の生産量の回復は限定的。

- ・雇止め、倒産は一部に留まっている。
- ・雇用を維持しながら事業活動を継続。

- ・2～4月にかけて住宅建築の工期延長や着工遅れの影響が出たが、5月以降は解消。

- ・住宅展示場来場者の激減による大手の注文住宅会社の大幅な受注減少は6月以降回復。

- ・戸建分譲住宅等低廉価格住宅の受注は引き続き堅調。

（参考）住宅会社の受注状況（受注額の前年同月比）資料：日刊木材新聞  
3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

大手<sup>注1</sup> 77% 64% 67% 85% 93% 108% 113% 98% 101% 103%

低廉<sup>注2</sup> 80% 99% 121% 117% 129% 138% 139% 123% 112% 118%

注1：積水ハウス、大和ハウス工業、住友林業、三井ホーム等の8社

注2：タマホーム、ヤマダホーム、ヒノキヤグループの3社

- ・2020年の住宅着工戸数は、81.5万戸で前年比9.9%の減少。木造住宅は、46.9万戸で前年比10.3%の減少。

## 【木材輸出】



- ・中国向けの輸出は4月以降、回復。

（参考）木材輸出額 うち丸太（額） うち中国向け丸太（額、量）

2月	2,428(▲17%)	996(▲18%)	687(▲30%)	6.2(▲20%)
3月	2,585(▲27%)	957(▲39%)	582(▲54%)	5.1(▲47%)
4月	3,129(▲10%)	1,725(+3%)	1,423(▲1%)	12.9(+20%)
5月	2,659(▲8%)	1,418(▲6%)	1,120(▲10%)	10.1(+14%)
6月	3,294(+1%)	1,770(+11%)	1,452(+9%)	12.6(+30%)
7月	3,251(+22%)	1,471(+65%)	1,187(+71%)	10.3(+76%)
8月	2,858(+9%)	1,285(+29%)	1,070(+34%)	10.0(+52%)
9月	3,066(+32%)	1,404(+84%)	1,163(+101%)	10.5(+118%)
10月	3,749(+39%)	1,715(+66%)	1,484(+83%)	13.4(+93%)
11月	3,219(+7%)	1,329(▲4%)	1,082(▲7%)	9.3(▲9%)
12月	3,569(+18%)	1,551(+20%)	1,276(+30%)	10.8(+31%)

注：単位は輸出額 百万円、輸出量 万m<sup>3</sup>、（ ）内は対前年同月比

- ・中国をはじめとした海外での木材需要は堅調に推移しているものの、今後の先行きは不透明。

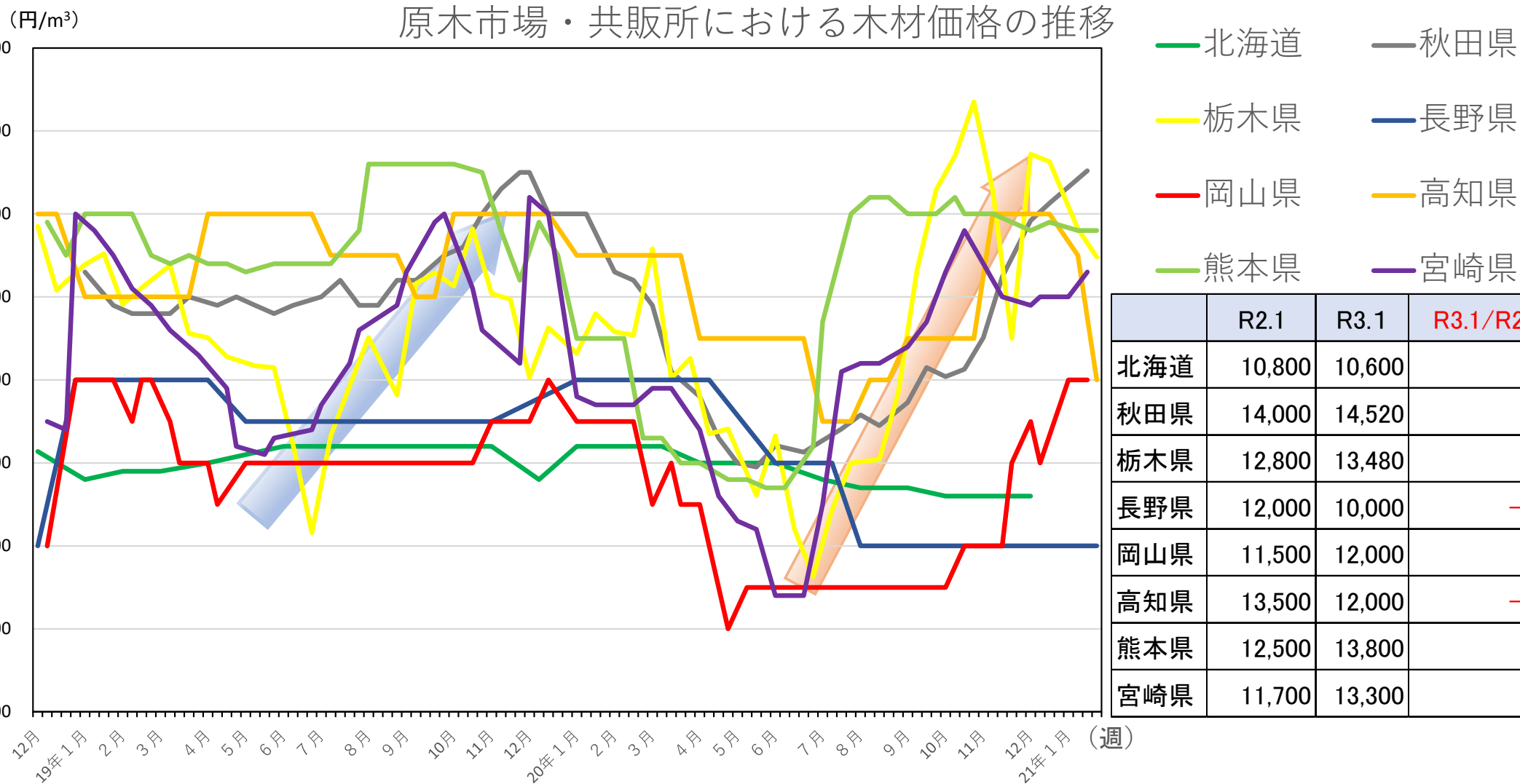
## 【雇用】

- ・雇止め・倒産には至っていない。
- ・雇用を維持しながら事業活動を継続。

# 1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)

## ア スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和2年は6月頃の価格が例年よりも大きく低下したが、7月の長雨などの影響により出材が低下し、以降価格が上向きに転換。11月頃の価格は前年と同程度まで上昇しており、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年1月のスギ原木価格は、対前年比17%減から14%増と地域により異なる傾向が見られる。



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

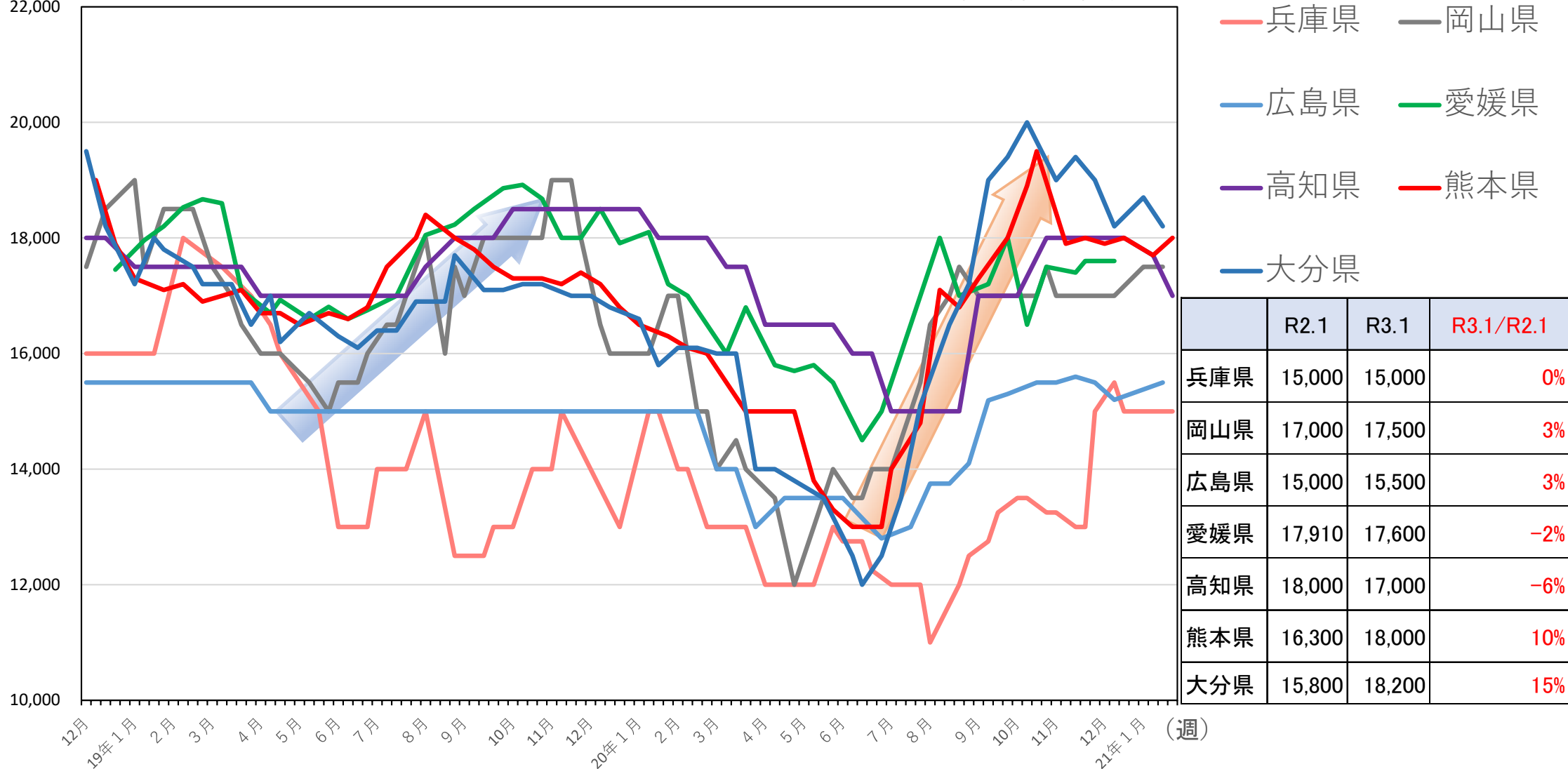
資料：林野庁木材産業課調べ



# イ ヒノキ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、令和2年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、7月以降の価格上昇により、10月頃には昨年同程度かそれ以上の価格まで回復している地域も見られる。
- ・ 令和3年1月のヒノキ原木価格は、対前年比6%減~15%増と増加している地域が多い。

(円/m<sup>3</sup>) 原木市場・共販所における木材価格の推移



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。  
資料：林野庁木材産業課調べ

## (2) 製品価格の推移・動向

- 令和2年の製品価格は前半に多くの地域で下落が見られた。
- 一方、9月以降は横ばいで推移し、秋から年末にかけて地域や品目によっては価格の回復が見られた。

### ○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m<sup>3</sup>]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
北海道	67,700	67,700	67,100 ↓	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	-
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	55,000 ↓	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	54,000	53,000 ↓	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	54,000 ↑	54,000	54,000	54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	60,000 ↓	55,000 ↓	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	55,000	54,000 ↓	54,000	52,000 ↓	50,000 ↓	50,000	50,000	50,000	50,000	51,000 ↑
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	53,000	52,000	50,000 ↓	50,000	48,000 ↓	48,000	47,000 ↓	46,000 ↓	46,000	48,000 ↑	49,000 ↑	51,000 ↑

※スギ柱角・乾燥材は北海道のみ、エゾマツ・トドマツ105×105×3650mm

### ○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m<sup>3</sup>]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
首都圏	66,000	66,000	65,000 ↓	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	64,000	63,000 ↓	63,000	61,000 ↓	59,000 ↓	59,000	59,000	59,000	59,000	60,000 ↑
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	62,000	61,000 ↓	61,000	61,000	60,000 ↓	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000

※ヒノキ柱角・乾燥材は九州のみ、120×120×3000mm

### ○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	950 ↓	950	950	950	950	950
首都圏	1,050	1,050	1,030 ↓	1,030	1,010 ↓	980 ↓	950 ↓	950	940 ↓	940	940	950 ↑
名古屋	1,050	1,050	1,020 ↓	1,020	1,000 ↓	960 ↓	930 ↓	930	930	930	930	930
大阪	1,050	1,050	1,010 ↓	1,000 ↓	990 ↓	950 ↓	920 ↓	900 ↓	900	900	900	900
広島	1,070	1,070	1,050 ↓	1,030 ↓	1,030	1,000 ↓	950 ↓	930 ↓	930	930	930	950 ↑
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

### ○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,930	1,880 ↓	1,880	1,880	1,860 ↓	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

□横ばい □↓下落 □↑上昇

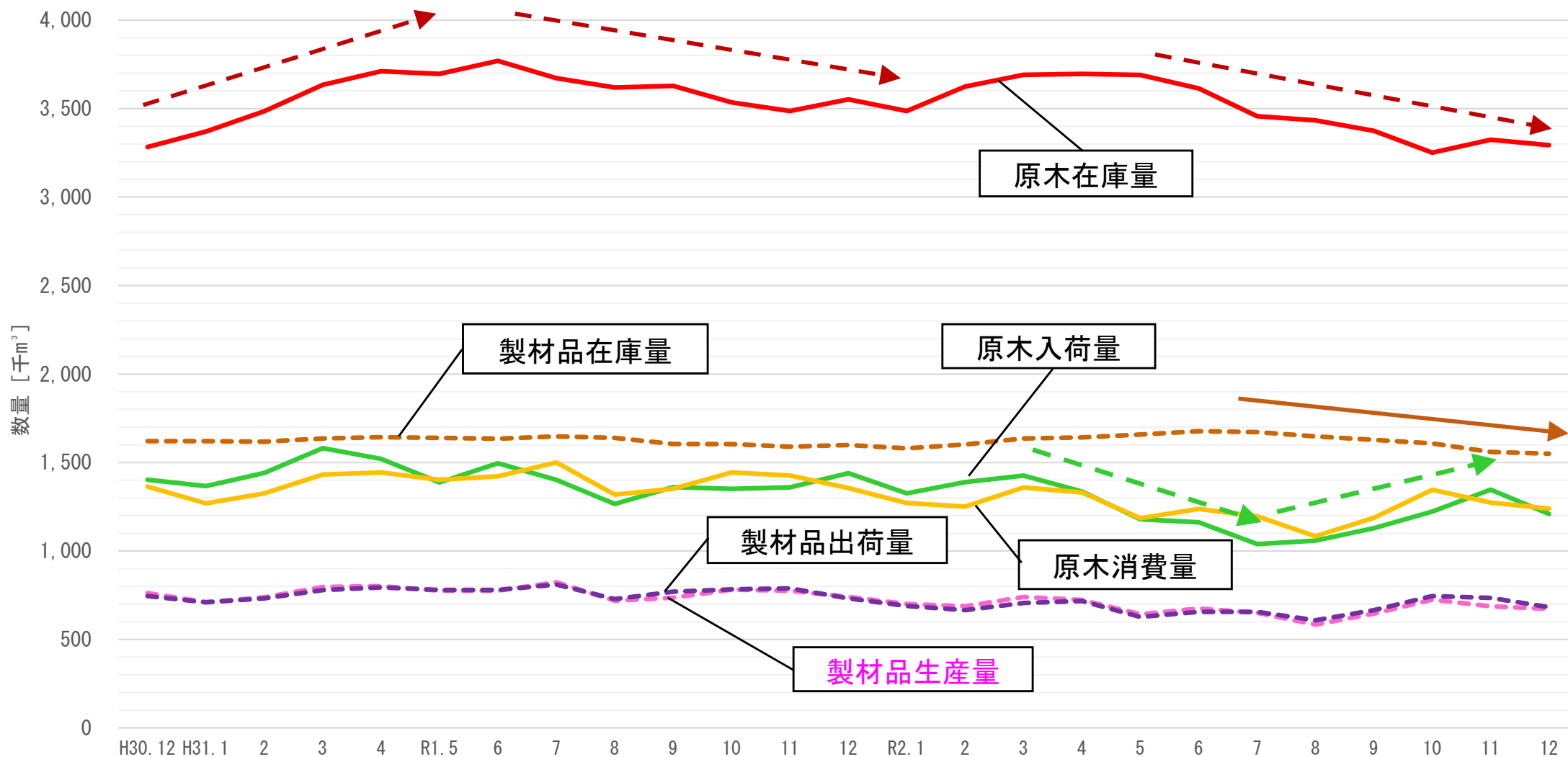
出典：日刊木材新聞



## 2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

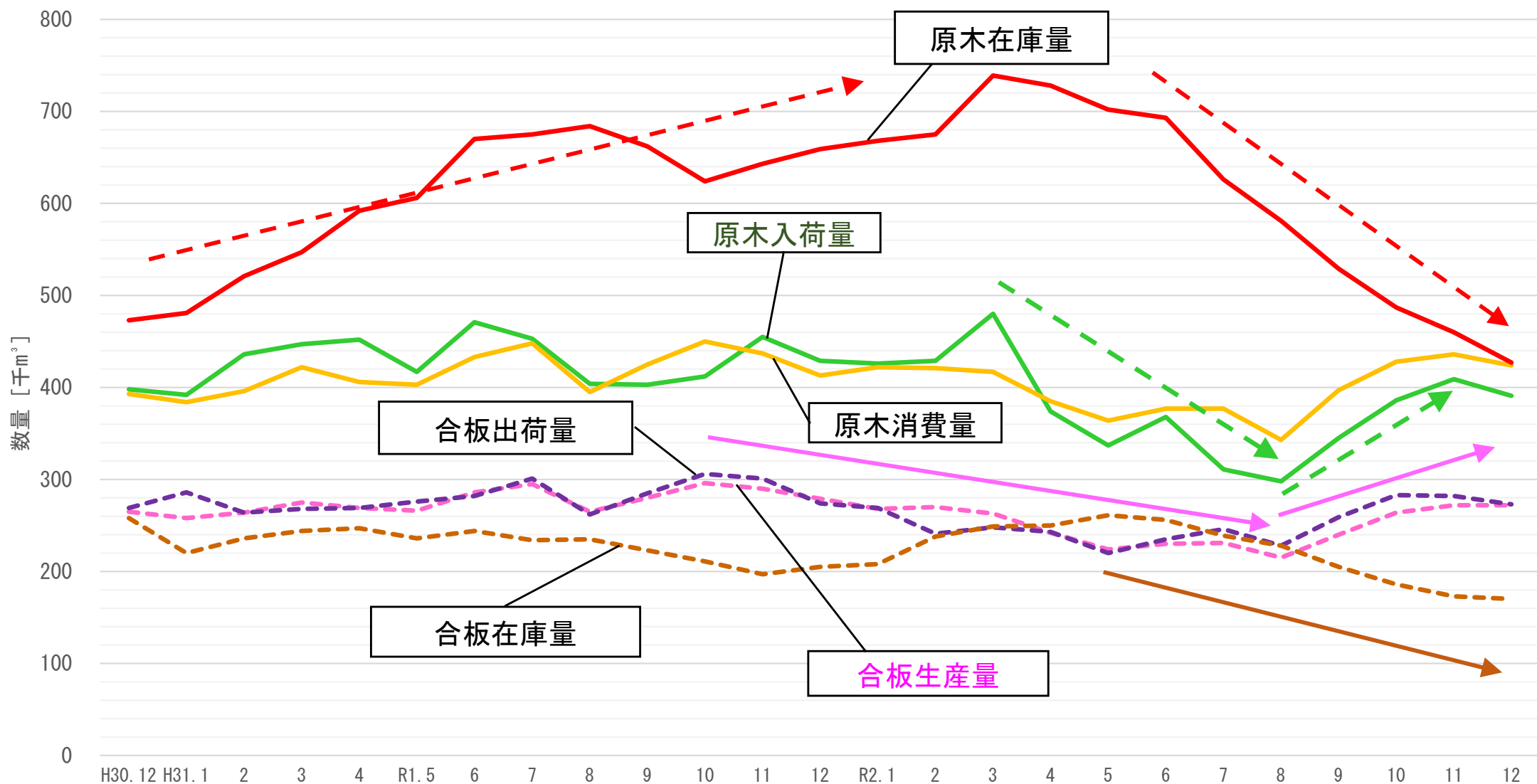
### (1) 製材 (全国)

- ・ 原木の入荷量、消費量は、令和2年4月以降減少したが、8月から上昇に転じている。12月には原木不足の影響からやや減少した。原木の在庫量は6月以降減少のトレンドにあるが、例年の季節変動の範囲。
- ・ 令和2年の製材品の生産量、出荷量は、数ヶ月で増減を繰り返したものの令和元年に比べ、年間で見れば1割の低下となった。在庫量は令和2年6月以降緩やかな減少傾向にある。



## (2) 合板 (全国)

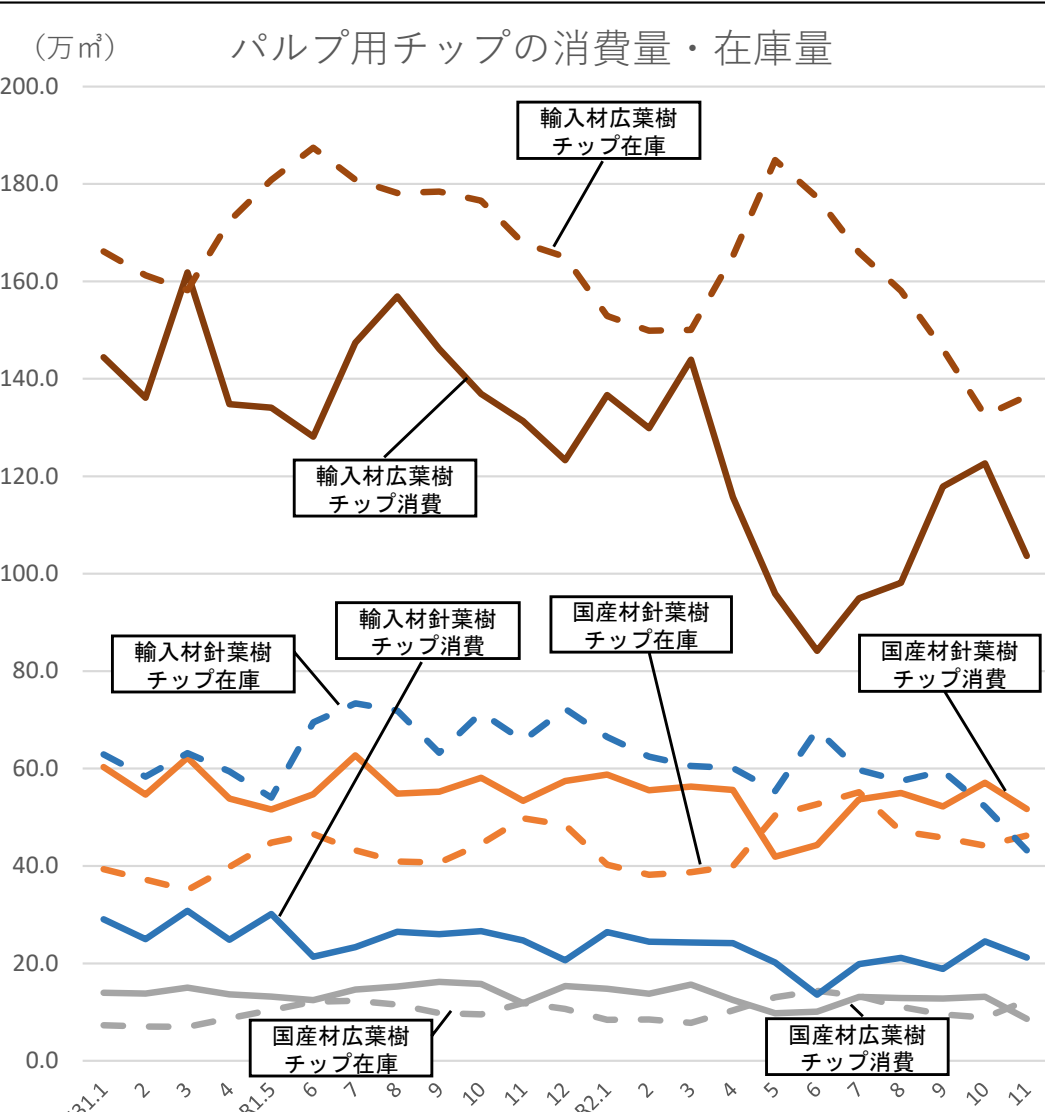
- ・ 原木の在庫量については、令和2年4月以降急激な減少傾向が続いている。
- ・ 原木の入荷量は令和2年4月以降減少していたが、9月以降は増加に転換した。12月には原木不足のため減少した。
- ・ 合板の生産量、出荷量は、令和元年10月以降減少していたが、令和2年9月から増加に転じた。一方、製品在庫は6月以降一貫して減少している。



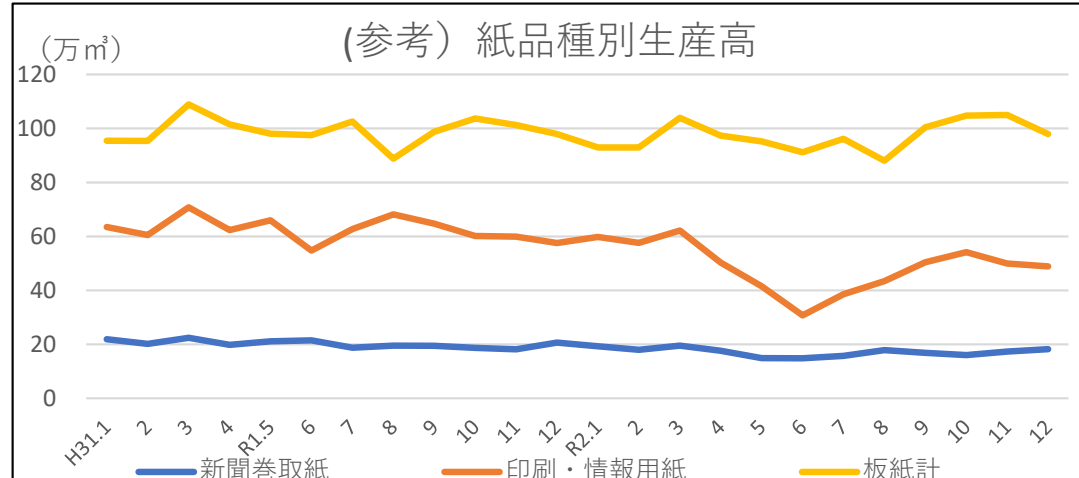
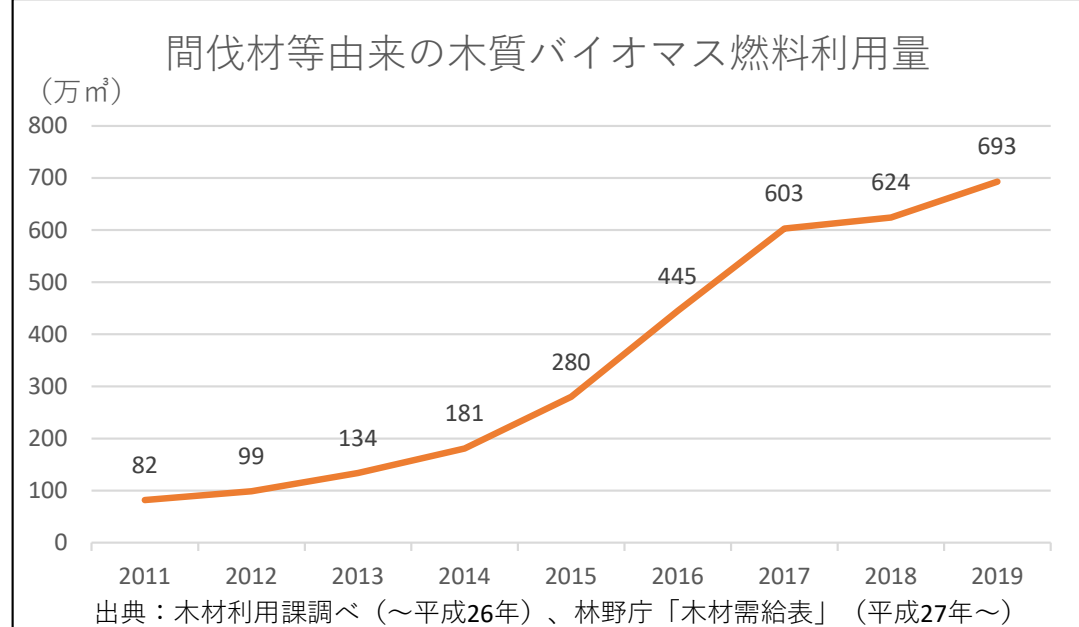
資料：農林水産省「合板統計」

### (3) チップ（全国）

- ・ パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減した。その後7月から10月までは回復した。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- ・ テレワークの普及により、令和2年4月から6月に印刷・情報用紙の生産が減少したことが原因と考えられる。
- ・ 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。



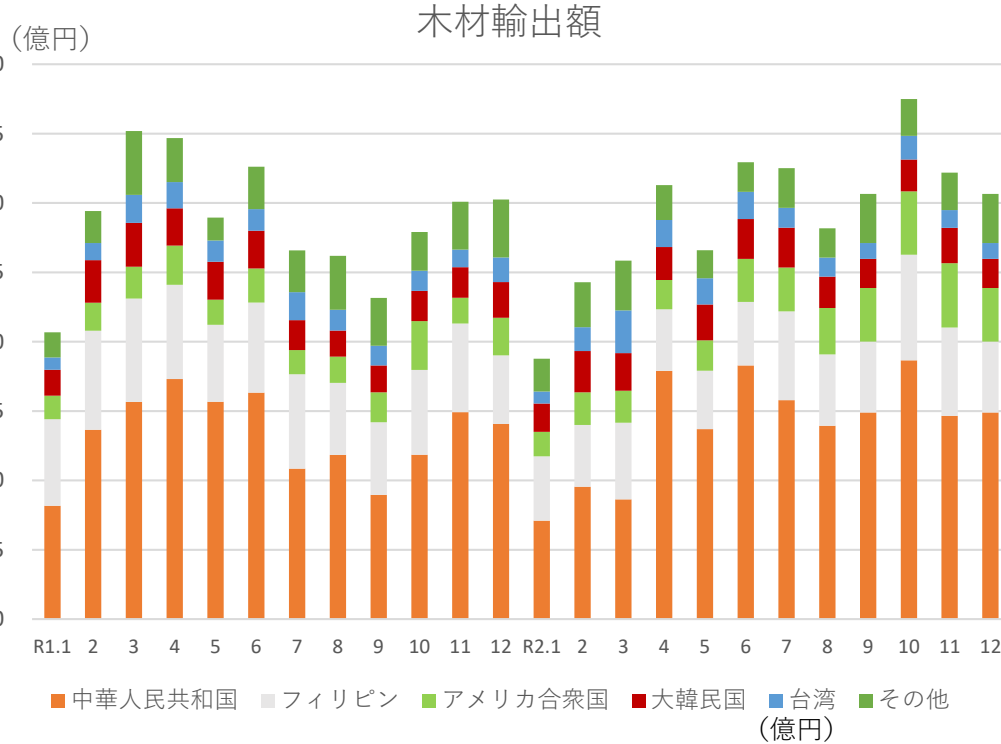
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」



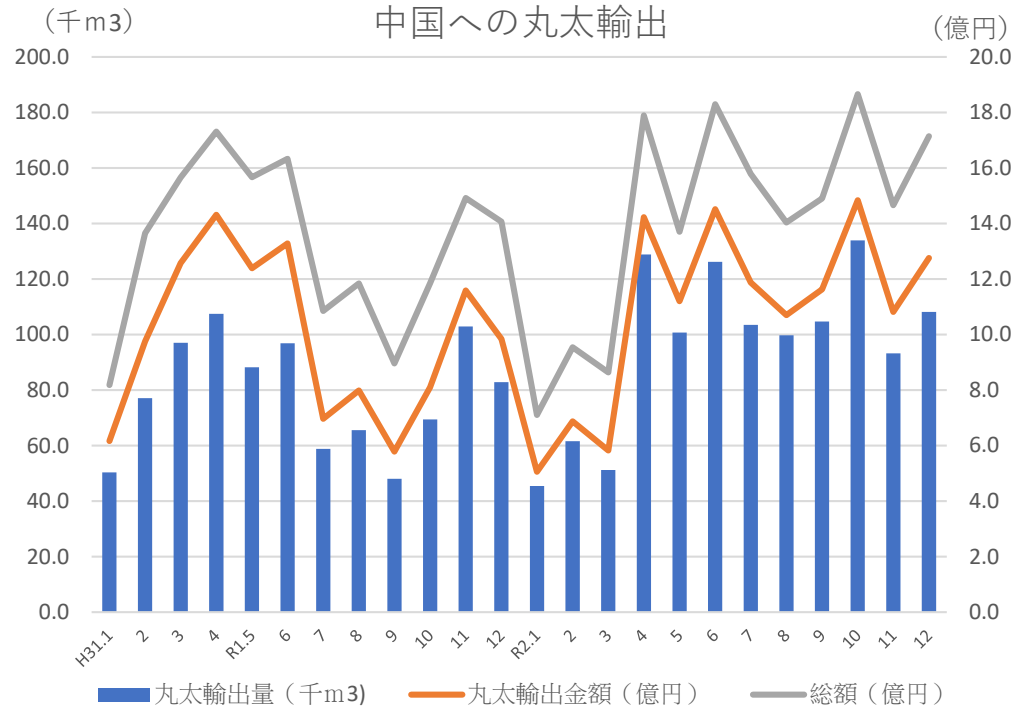
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

### 3 木材輸出額

- ・木材輸出額について、令和2年1～12月期と前年同期の実績を比較すると、**6.0%増**となっている。
- ・輸出額の約半分が**中国向け**であり、その大半が**丸太輸出**となっている。
- ・中国への丸太輸出は、令和2年1～3月に大きく落ち込んだが、その後は大きく増加し、**1～12月期で対前年比22.5%増**となった。



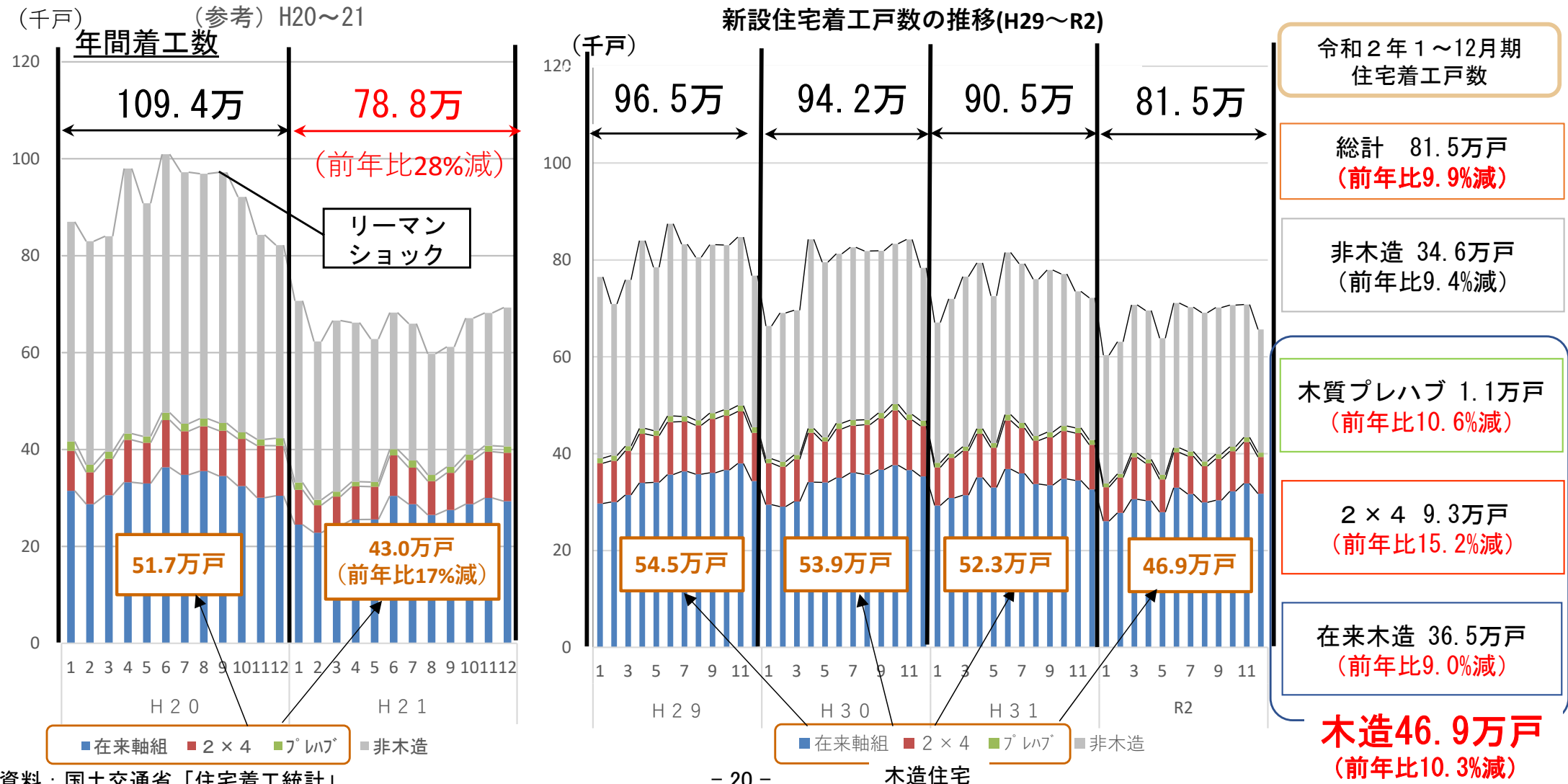
	R1.1～R1.12	R2.1～R2.12	R2/R1
合計	331.6	351.4	6.0%
中華人民共和国	145.2	168.0	15.7%
フィリピン	74.3	63.5	-14.5%
アメリカ合衆国	27.0	37.3	38.1%
大韓民国	29.2	29.8	2.0%
台湾	18.5	19.5	5.4%
その他	37.4	33.3	-11.0%



	R1.1～R1.12	R2.1～R2.12	R2/R1
丸太輸出量 (千m3)	944.5	1,157.1	22.5%
丸太輸出金額 (億円)	118.7	130.3	9.8%
中国向け木材輸出総額 (億円)	159.3	170.4	7.0%
丸太単価 (円/m3)	12,570.7	11,261.4	-10.4%

## 4 住宅着工数の推移（平成20年1月～令和2年12月）

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）。木造住宅は46.9万戸（前年比10.3%減）。
- 緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショックほどの落ち込みは見られなかった。



## 5 主要木材の需給見通し（令和元年第2四半期～令和3年第2四半期）

- 林野庁が主催する木材需給会議（12月22日開催）では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。
- ・ 国産製材用丸太は、第3四半期に前年同期比79.2%に減少したが、第4四半期以降増加に転じると見込む。
  - ・ 国産合板用丸太は、第3四半期に前年同期比77.6%に減少したが、第4四半期以降増加に転じると見込む。
  - ・ 合板の国内製造は、第3四半期に前年同期比81.7%に減少したが、第4四半期以降増加に転じると見込む。
  - ・ 製材、合板、構造用集成材の輸入は、第4四半期以降やや増加すると見込む。

（下段は前年同期比）（カッコ内は前回までの見込み）（単位：千m<sup>3</sup>）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品 計	合板		構造用集成材	
			国産材		輸入 計		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用						
令和元年 (平成31年)	4-6月	実績	3,366	1,256	827	1,567	821	614	475	210
			103.1%	108.4%	104.1%	94.8%	100.8%	79.2%	102.2%	92.1%
	7-9月	実績	3,046	1,190	658	1,501	841	589	490	218
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	10-12月	実績	3,324	1,212	715	1,352	865	648	505	214
99.1%			102.5%	97.1%	94.2%	106.4%	83.6%	109.8%	111.4%	
年計			13,108	4,839	3,026	5,795	3,324	2,535	1,915	839
			103.3%	108.1%	94.0%	94.4%	103.3%	86.7%	105.5%	103.2%
令和2年	1-3月	実績	3,222	1,217	649	1,261	801	633	460	212
			95.6%	103.1%	78.6%	91.7%	100.5%	92.5%	103.4%	107.6%
	4-6月	実績	2,861	1,027	555	1,461	696	616	465	256
			85.0%	81.8%	67.1%	93.3%	84.8%	100.4%	97.9%	121.9%
	7-9月	実績	2,411	923	510	1,235	687	455	405	240
			79.2%(88.6%)	77.6%(92.5%)	77.5%(95.0%)	82.3%(83.3%)	81.7%(86.8%)	77.2%(92.7%)	82.7%(74.5%)	110.2%(91.8%)
10-12月	見込み	2,800	1,100	491	1,164	780	530	430	235	
		84.2%	90.8%	68.7%	86.1%	90.2%	81.8%	85.1%	109.9%	
年計			11,294	4,267	2,205	5,121	2,964	2,234	1,760	943
			86.2%	88.2%	72.9%	88.4%	89.2%	88.1%	91.9%	112.4%
令和3年	1-3月	見通し	2,800	1,100	618	1,190	770	544	390	225
			86.9%	90.4%	95.2%	94.4%	96.1%	85.9%	84.8%	106.1%
	4-6月	見通し	3,000	1,100	597	1,250	750	538	430	225
			104.9%	107.1%	107.6%	85.6%	107.8%	87.3%	92.5%	87.9%

資料：林野庁「令和2年度 第2回木材需給会議」